

第 1 章

令和3年の福島県経済の概況

第1章 令和3年の福島県経済の概況

1 概要

【総合判断】

令和3年(2021年)の福島県経済は、一部に持ち直しの動きが見られたものの、新型コロナウイルス感染症の影響などにより全体としては厳しい状況が続いた。

令和3年の福島県の経済を振り返ると、新型コロナウイルス感染症の影響で悪化した前年から、生産や雇用・労働に一部持ち直しの動きが見られたものの、復興事業の進捗などから建設需要に弱さが見られ、全体としては厳しい状況が続いた。

個人消費を見ると、専門量販店販売額は前年を上回ったものの、百貨店・スーパー販売額、コンビニエンスストア販売額、乗用車新規登録台数は前年を下回った。

建設需要をみると、公共工事請負金額及び業務用建築物着工工事費は前年を大きく下回り、新設住宅着工戸数も前年を下回った。

生産活動をみると、鉱工業指数(原指数)は改善し、生産指数、出荷指数ともに前年を上回った。

雇用・労働をみると、常用雇用指数が前年を下回ったものの、新規求人倍率や有効求人倍率、所定外労働時間指数などは前年を上回った。

2 個別指標の国と福島県の比較

令和3年の日本経済は、海外経済の改善に伴う外需の増加とそれによる生産活動の持ち直しの動きが見られたが、緊急事態宣言等の断続的な発出や、半導体不足等の供給制約などといった下押し圧力もあり、一進一退の動きとなった。

このような状況を踏まえ、令和3年における個別指標について福島県と全国の前年比を比較することで、福島県の特性を確認する。

現金給与総額指数、所定外労働時間指数は、全国の上昇幅よりも県の上昇幅が大きかった。また、専門量販店販売額は、全国が下降したのに対して県は上昇した。

一方、生産活動や金融の各指標は全国の上昇幅よりも県の上昇幅が小さかった。また、個人消費や建設需要なども、全国で上昇していても県は下降していたり、全国の下降幅よりも県の下降幅が大きかったりと、相対的に弱い動きとなった。

(図1-2-1、表1-2-1)

図1-2-1 令和3年個別指標の前年比レーダーチャート

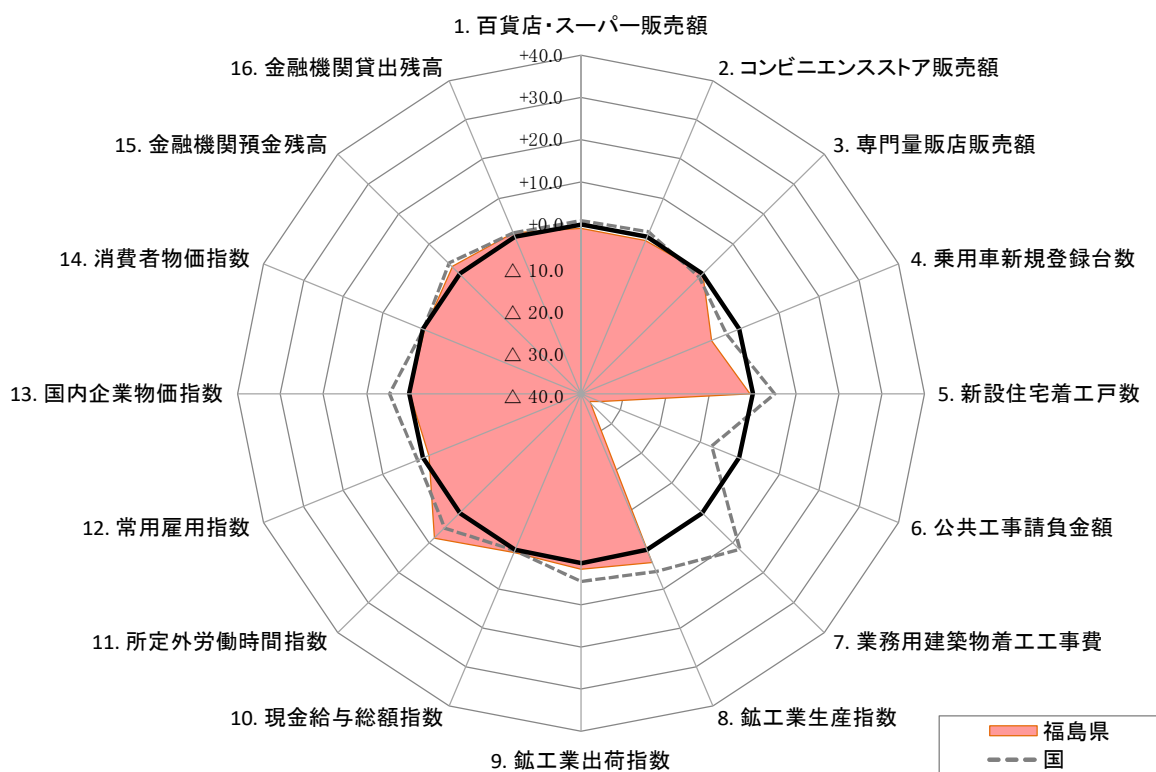


表1-2-1 令和3年個別指標の前年比及び差

個別指標		国 (前年比%)	福島県 (前年比%)	差(県-国) (ポイント)
個人消費	1. 百貨店・スーパー販売額	+0.9	△ 0.9	△ 1.8
	2. コンビニエンスストア販売額	+1.3	△ 1.0	△ 2.3
	3. 専門量販店販売額	△ 1.2	+0.2	+1.4
	4. 乗用車新規登録台数	△ 3.5	△ 7.1	△ 3.6
建設需要	5. 新設住宅着工戸数	+5.0	△ 0.8	△ 5.8
	6. 公共工事請負金額	△ 7.2	△ 35.1	△ 27.9
	7. 業務用建築物着工工事費	+12.2	△ 37.2	△ 49.4
生産活動	8. 鉱工業生産指数	+5.6	+3.4	△ 2.2
	9. 鉱工業出荷指数	+4.6	+1.5	△ 3.1
労働	10. 現金給与総額指数	+0.3	+0.6	+0.3
	11. 所定外労働時間指数	+5.1	+8.4	+3.3
	12. 常用雇用指数	+1.2	△ 1.6	△ 2.8
物価	13. 国内企業物価指数	+4.5	—	—
	14. 消費者物価指数	△ 0.2	△ 0.5	△ 0.3
金融	15. 金融機関預金残高	+3.6	+2.4	△ 1.2
	16. 金融機関貸出残高	+1.2	+1.1	△ 0.1

※ 国内企業物価指数は国の値のみ、消費者物価指数は福島市の調査結果。

※ 令和3年の各指標の前年比について、景気に対して累進性(増加することで景気が回復しているとみられる)がある指標をレーダーチャートで表した。景気に対して逆進性(増加することで景気が後退しているとみられる)がある指標、前年比ではなく前年差でみる指標などについては、P.6以降を参照。

※ 端数処理のため、差(県-国)の値が一致しないことがあります。

3 福島県経済の四半期別の概要

【個人消費】

百貨店・スーパー販売額(全店舗ベース)は、第4四半期を除き前年を下回った。

コンビニエンスストア販売額は、第2四半期を除き前年を下回った。

専門量販店販売額は、第1四半期は前年を上回ったが、第2四半期、第4四半期は前年を下回った。

乗用車新規登録台数は、第1四半期、第2四半期は前年を上回ったが、第3四半期、第4四半期は前年を下回った。

【建設需要】

新設住宅着工戸数は、第1四半期を除き前年を上回った。

公共工事請負金額は、第1四半期を除き前年を下回った。

業務用建築物着工工事費は、第4四半期を除き前年を下回った。

【生産活動】

鉱工業生産指数(季節調整済指数)は、第2四半期、第3四半期は前年を上回ったが、第1四半期、第4四半期は前年を下回った。

鉱工業出荷指数(季節調整済指数)は、第2四半期、第3四半期は前年を上回ったが、第1四半期、第4四半期は前年を下回った。

【労働】

現金給与総額指数は、第1四半期、第2四半期は前年を上回ったが、第3四半期、第4四半期は前年を下回った。

所定外労働時間指数は、第1四半期を除き前年を上回った。

常用雇用指数は、全期で前年を下回った。

【物価】

国内企業物価指数は、第1四半期を除き前年を上回った。

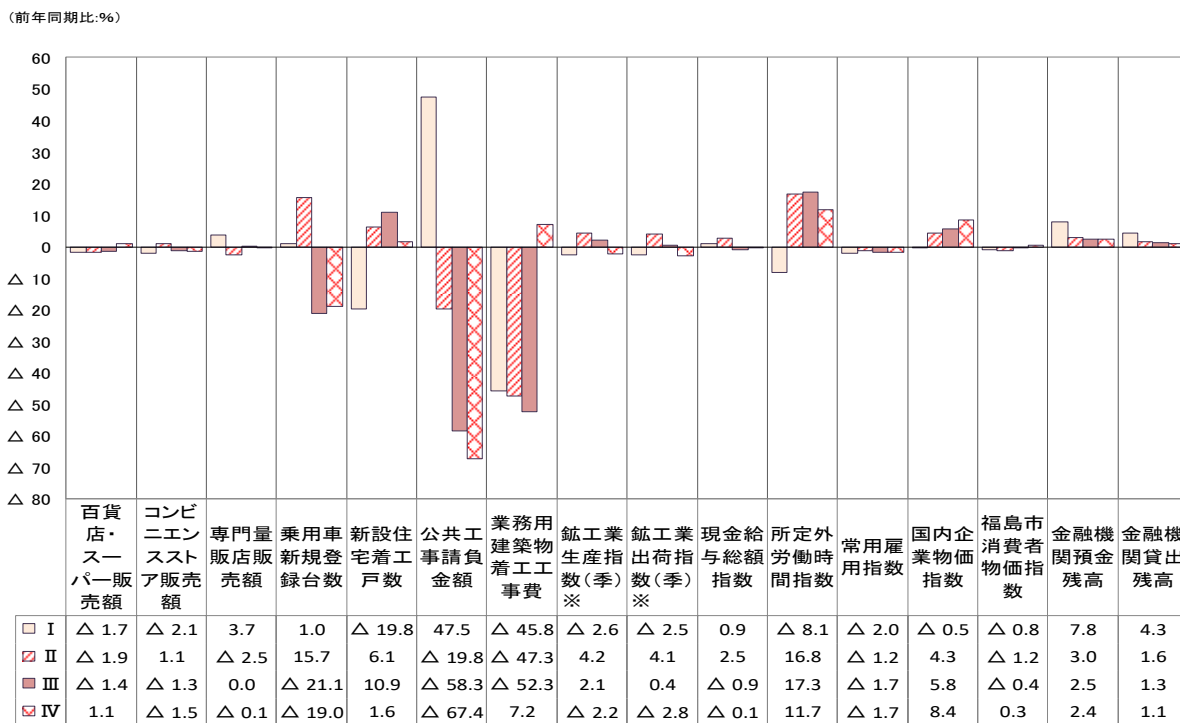
福島市消費者物価指数は、第4四半期を除き前年を下回った。

【金融】

金融機関預金残高は、全期で前年を上回った。

金融機関貸出残高は、全期で前年を上回った。

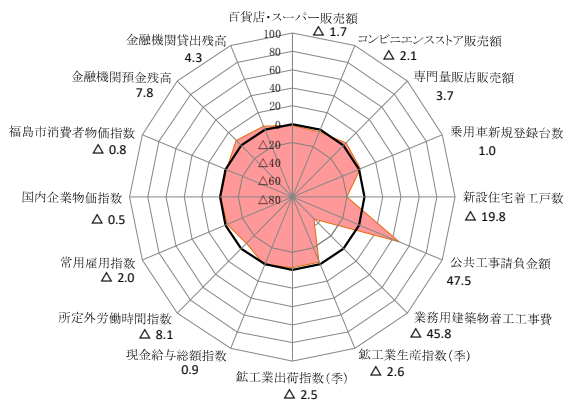
図1-3-1 主要指標毎の前年同期比の推移



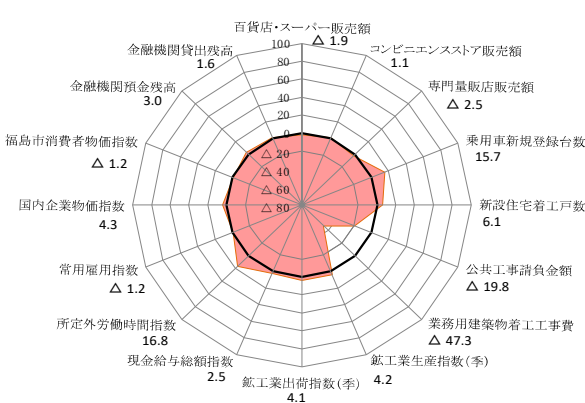
※鉱工業生産指数及び鉱工業出荷指数は前期比。

図1-3-2 主要指標の四半期毎前年同期比のレーダーチャート

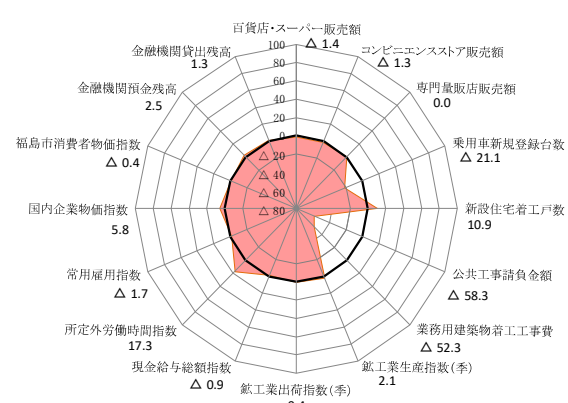
県(第1四半期平均)



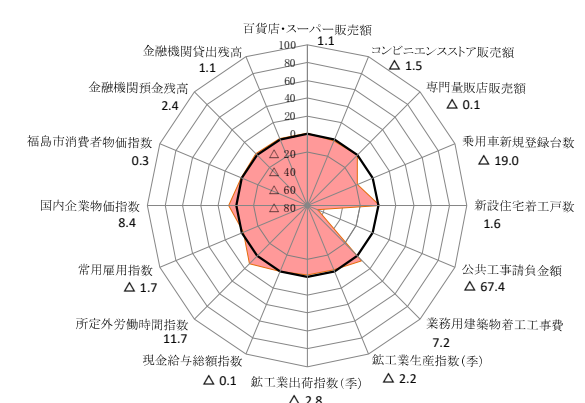
県(第2四半期平均)



県(第3四半期平均)



県(第4四半期平均)



4 主要な個別指標の概要

○ 指標名及びグラフのマーカーの色の見方について

- 1 指標名の色について、年値が前年と比較して、改善している指標は緑字、悪化している指標は赤字、同水準である、または個別には判断のつかない指標は灰色で表しています。
- 2 グラフのマーカーの色について、四半期値が前年同期(前期)と比較して、改善している指標は緑色(■)、悪化している指標は赤色(■)、同水準である、または個別には判断のつかない指標は灰色(■)で表しています。(「前期」と比較している指標は「鉱工業指数、求人倍率、パートタイム労働者比率、貸出約定平均金利、日経平均株価、円相場、景気動向指数」)
- 3 第1四半期は「1～3月期」、第2四半期は「4～6月期」、第3四半期は「7～9月期」、第4四半期は「10～12月期」です。

個人消費

前年からの
変化方向

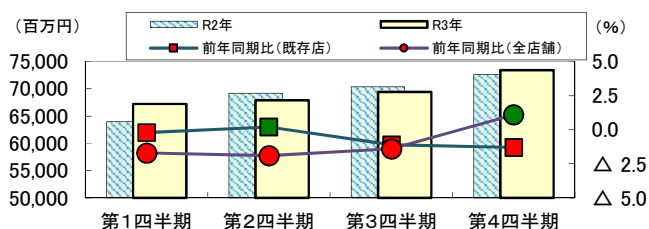


新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況が続いた。

- (1) **百貨店・スーパー販売額**は全店舗ベースで総額2,779億52百万円、前年比0.9%減となり、2年振りに前年を下回った。

【 詳細は P.14に掲載 】

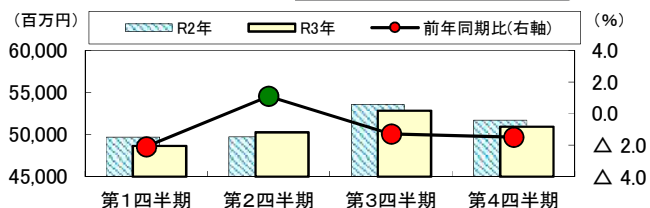
	販売額	前年同期比	
		前年比(全店舗)	前年比(既存店)
第1四半期	67,210	△ 1.7	△ 0.2
第2四半期	67,918	△ 1.9	0.2
第3四半期	69,401	△ 1.4	△ 1.1
第4四半期	73,424	1.1	△ 1.3
R3年	277,952	△ 0.9	△ 0.6



- (2) **コンビニエンスストア販売額**は総額約2,026億97百万円、前年比1.0%減となり、2年連続で前年を下回った。

【 詳細は P.16に掲載 】

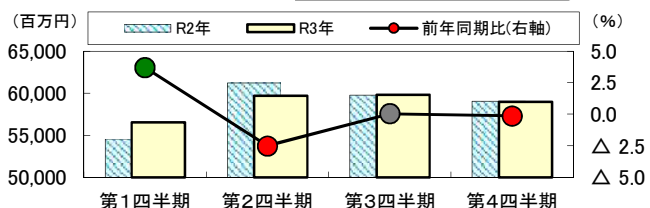
	販売額	前年同期比
		前年比
第1四半期	48,652	△ 2.1
第2四半期	50,266	1.1
第3四半期	52,855	△ 1.3
第4四半期	50,924	△ 1.5
R3年	202,697	△ 1.0



- (3) **専門量販店販売額**は2,349億96百万円、前年比0.2%増となり、7年連続で前年を上回った。

【 詳細は P.16に掲載 】

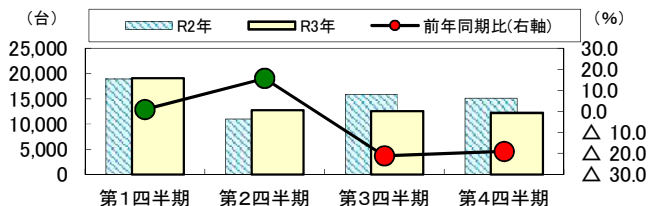
	販売額	前年同期比
		前年比
第1四半期	56,551	3.7
第2四半期	59,687	△ 2.5
第3四半期	59,791	0.0
第4四半期	58,967	△ 0.1
R3年	234,996	0.2



- (4) **乗用車新規登録台数**は56,631台、前年比7.1%減となり、2年連続で前年を下回った。

【 詳細は P.18に掲載 】

	登録台数	前年同期比
		前年比
第1四半期	19,106	1.0
第2四半期	12,739	15.7
第3四半期	12,569	△ 21.1
第4四半期	12,217	△ 19.0
R3年	56,631	△ 7.1



建設需要

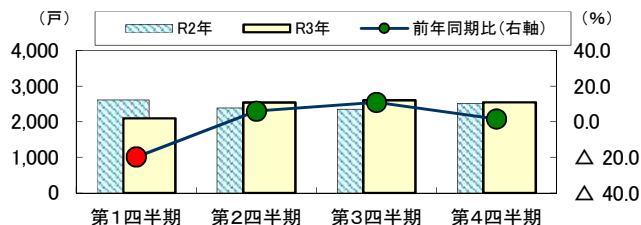
前年からの
変化方向

東日本大震災の復興事業の進捗などにより、民間需要、公共工事ともに弱い動きとなった。

- (1) **新設住宅着工戸数**は9,791戸、前年比0.8%減となり、5年連続で前年を下回った。

【 詳細は P.20に掲載 】

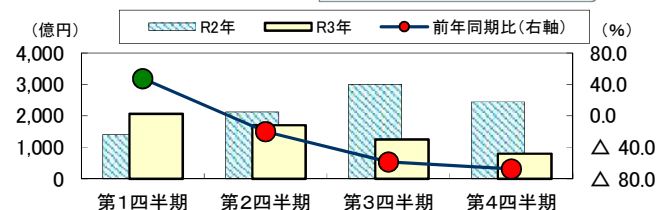
(単位:戸、%)		
	着工戸数	前年同期比 前年比
第1四半期	2,095	△ 19.8
第2四半期	2,539	6.1
第3四半期	2,607	10.9
第4四半期	2,550	1.6
R3年	9,791	△ 0.8



- (2) **公共工事請負金額**は総額約5,814億円、前年比35.1%減となり、3年振りに前年を下回った。

【 詳細は P.22に掲載 】

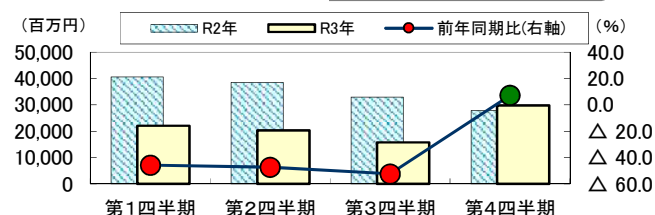
(単位:億円、%)		
	請負金額	前年同期比 前年比
第1四半期	2,065	47.5
第2四半期	1,703	△ 19.8
第3四半期	1,249	△ 58.3
第4四半期	796	△ 67.4
R3年	5,814	△ 35.1



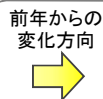
- (3) **業務用建築物着工工事費**は総額約878億37百万円、前年比37.2%減となり、2年振りに前年を下回った。

【 詳細は P.24に掲載 】

(単位:百万円、%)		
	着工工事費	前年同期比 前年比
第1四半期	22,014	△ 45.8
第2四半期	20,332	△ 47.3
第3四半期	15,740	△ 52.3
第4四半期	29,750	7.2
R3年	87,837	△ 37.2



生産活動



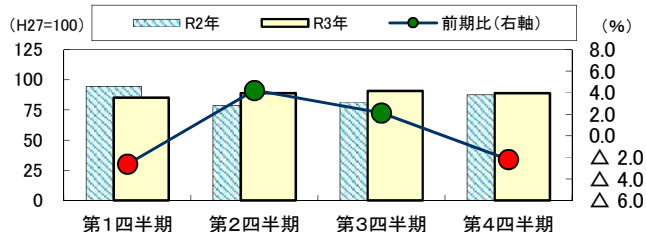
持ち直しの動きが見られたが、新型コロナウイルス感染症の影響などもあり、一進一退の状況が続いた。

- (1) 鉱工業生産指数(原指数)は88.3(H27=100)、前年比3.4%増となり、3年振りに前年を上回った。

【 詳細は P.26に掲載 】

(単位: H27=100, %)

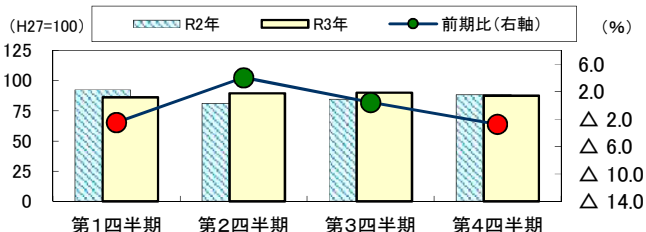
	生産指数	前期比(季節調整値) 前年比(原数値)
第1四半期	85.2	△ 2.6
第2四半期	88.8	4.2
第3四半期	90.7	2.1
第4四半期	88.7	△ 2.2
R3年	88.3	3.4



- (2) 鉱工業出荷指数(原指数)は88.2(H27=100)、前年比1.5%増となり、3年振りに前年を上回った。

(単位: H27=100, %)

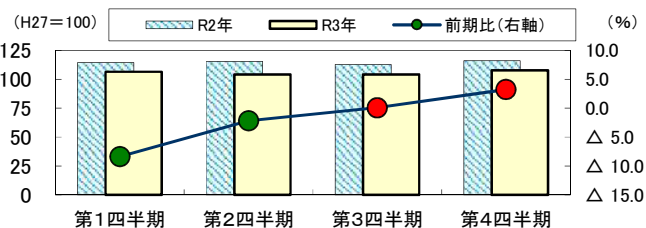
	出荷指数	前期比(季節調整値) 前年比(原数値)
第1四半期	86.1	△ 2.5
第2四半期	89.6	4.1
第3四半期	90.0	0.4
第4四半期	87.5	△ 2.8
R3年	88.2	1.5



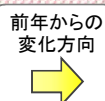
- (3) 鉱工業在庫指数(原指数)は105.8(H27=100)、前年比7.8%減となり、2年連続で前年を下回った。

(単位: H27=100, %)

	在庫指数	前期比(季節調整値) 前年比(原数値)
第1四半期	106.6	△ 8.3
第2四半期	104.3	△ 2.2
第3四半期	104.4	0.1
第4四半期	107.8	3.3
R3年	105.8	△ 7.8



雇用・労働



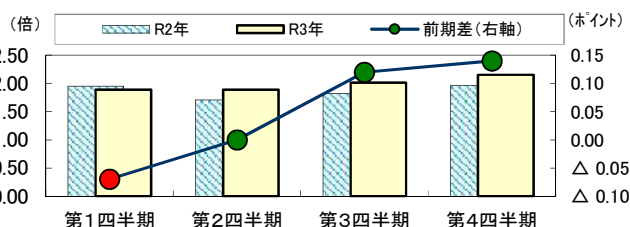
厳しい状況が続いたが、緩やかな改善が見られた。

- (1) 新規求人倍率(原数値)は1.95倍、前年差0.10ポイント上昇し、2年振りに前年を上回った。

【 詳細は P.30に掲載 】

(単位: 倍、ポイント)

	倍率	前期差 前年差
第1四半期	1.89	△ 0.07
第2四半期	1.89	0.00
第3四半期	2.01	0.12
第4四半期	2.15	0.14
R3年	1.95	0.10

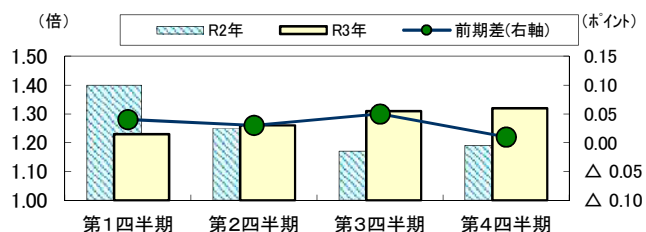


- (2) **有効求人倍率(原数値)**は1.28倍、前年差0.03ポイント上昇し、2年振りに前年を上回った。

【 詳細は P.32に掲載 】

(単位:倍、ポイント)

	倍率	前期差 前年差
第1四半期	1.23	0.04
第2四半期	1.26	0.03
第3四半期	1.31	0.05
第4四半期	1.32	0.01
R3年	1.28	0.03

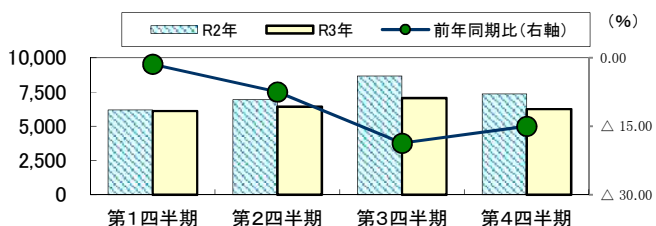


- (3) **雇用保険(基本手当基本分)受給者実人員**は年間平均で6,468人、前年比11.4%減となり、2年振りに前年を下回った。

【 詳細は P.34に掲載 】

(単位:人、%)

	受給者実人員	前年同期比 前年比
第1四半期	6,111	△ 1.4
第2四半期	6,430	△ 7.4
第3四半期	7,069	△ 18.7
第4四半期	6,263	△ 15.0
R3年	6,468	△ 11.4

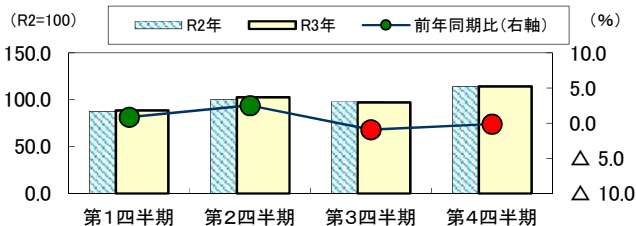


- (4) **現金給与総額指数(事業所規模5人以上)**は100.6、前年比0.6%増となり、2年振りに前年を上回った。

【 詳細は P.36に掲載 】

(単位:R2=100、%)

	指数	前年同期比 前年比
第1四半期	88.5	0.9
第2四半期	102.7	2.5
第3四半期	97.0	△ 0.9
第4四半期	114.0	△ 0.1
R3年	100.6	0.6

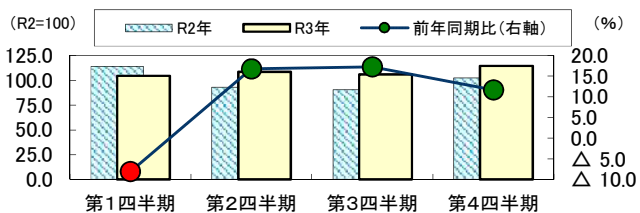


- (5) **所定外労働時間指数(事業所規模5人以上)**は108.5、前年比8.4%増となり、3年振りに前年を上回った。

【 詳細は P.36に掲載 】

(単位:R2=100、%)

	指数	前年同期比 前年比
第1四半期	104.7	△ 8.1
第2四半期	108.6	16.8
第3四半期	106.1	17.3
第4四半期	114.6	11.7
R3年	108.5	8.4

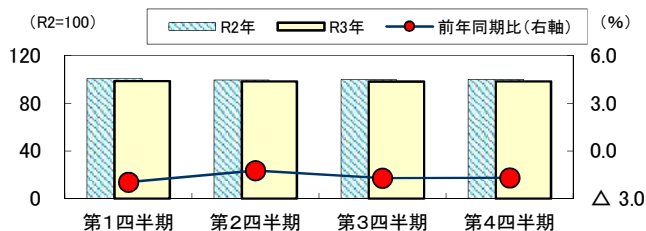


- (6) **常用雇用指数(事業所規模5人以上)**は98.4、前年比1.6%減となり、7年振りに前年を下回った。

【 詳細は P.38に掲載 】

(単位:R2=100、%)

	指数	前年同期比 前年比
第1四半期	98.5	△ 2.0
第2四半期	98.3	△ 1.2
第3四半期	98.2	△ 1.7
第4四半期	98.4	△ 1.7
R3年	98.4	△ 1.6



物 価

前年からの
変化方向



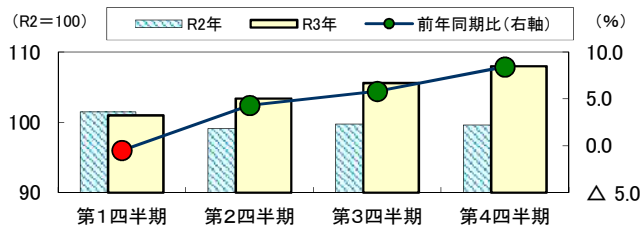
企業物価指数は上昇し、消費者物価指数は下降した。

- (1) **国内企業物価指数(総平均)**は104.5、前年比4.5%増となり、
2年振りに前年を上回った。

【 詳細は P.40に掲載 】

(単位: R2=100、%)

	指数	前年同期比 前年比
第1四半期	101.0	△ 0.5
第2四半期	103.4	4.3
第3四半期	105.6	5.8
第4四半期	108.0	8.4
R3年	104.5	4.5

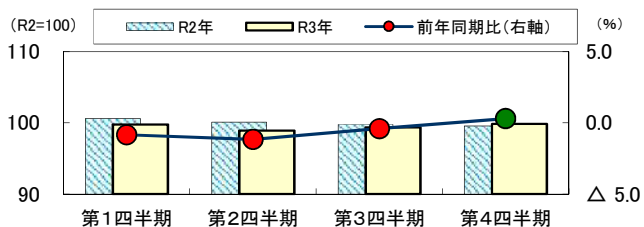


- (2) **福島市消費者物価指数(総合)**は99.5、前年比0.5%減となり、
5年振りに前年を下回った。

【 詳細は P.42に掲載 】

(単位: R2=100、%)

	指数	前年同期比 前年比
第1四半期	99.8	△ 0.8
第2四半期	98.9	△ 1.2
第3四半期	99.4	△ 0.4
第4四半期	99.9	0.3
R3年	99.5	△ 0.5



企業・金融

前年からの
変化方向

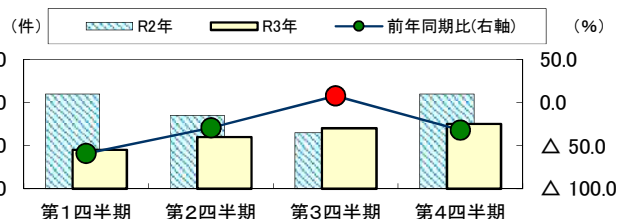
企業倒産の件数は前年を下回ったが、負債総額は前年を上回った。
預金残高及び貸出残高は前年を上回った。

- (1) **企業倒産件数**は50件、前年比32.4%減となり、
3年連続で前年を下回った。

(単位:件、%)

	件数	前年同期比 前年比
第1四半期	9	△ 59.1
第2四半期	12	△ 29.4
第3四半期	14	7.7
第4四半期	15	△ 31.8
R3年	50	△ 32.4

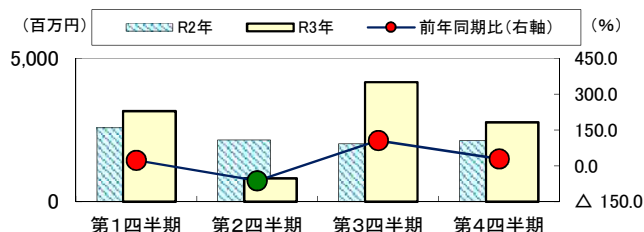
【 詳細は P.44に掲載 】



- 企業倒産負債総額**は108億84百万円、前年比22.5%増となり、
3年振りに前年を上回った。

(単位:百万円、%)

	負債総額	前年同期比 前年比
第1四半期	3,153	22.4
第2四半期	808	△ 62.5
第3四半期	4,161	105.7
第4四半期	2,762	29.5
R3年	10,884	22.5

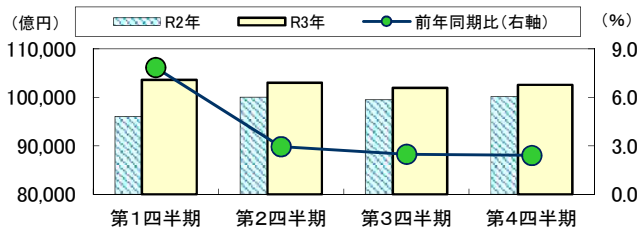


- (2) **金融機関預金残高**は総額10兆2557億円、前年比2.4%増となり、
3年連続で前年を上回った。

(単位:億円、%)

	預金残高	前年同期比 前年比
第1四半期	103,599	7.8
第2四半期	102,979	3.0
第3四半期	101,954	2.5
第4四半期	102,557	2.4
R3年	102,557	2.4

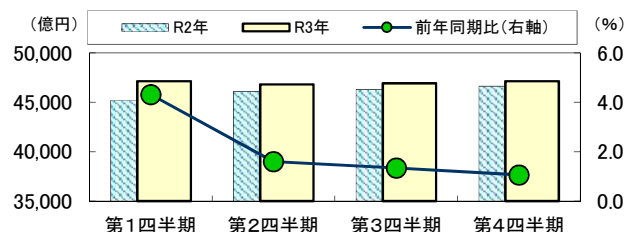
【 詳細は P.48に掲載 】



- 金融機関貸出残高**は総額4兆7,124億円、前年比1.1%増となり、
11年連続で前年を上回った。

(単位:億円、%)

	貸出残高	前年同期比 前年比
第1四半期	47,118	4.3
第2四半期	46,804	1.6
第3四半期	46,936	1.3
第4四半期	47,124	1.1
R3年	47,124	1.1

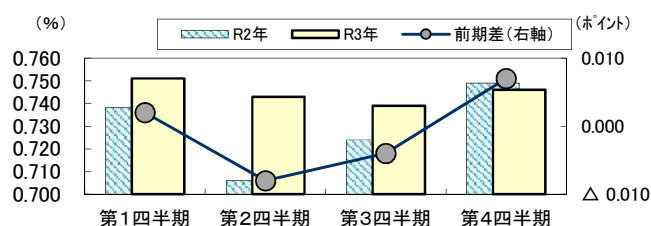


- (3) **貸出約定平均金利**は地方銀行で0.746%、
前年差0.003ポイント下降となった。

(単位:%、ポイント)

	金利	前期差 前年差
第1四半期	0.751	0.002
第2四半期	0.743	△ 0.008
第3四半期	0.739	△ 0.004
第4四半期	0.746	0.007
R3年	0.746	△ 0.003

【 詳細は P.50に掲載 】



市場

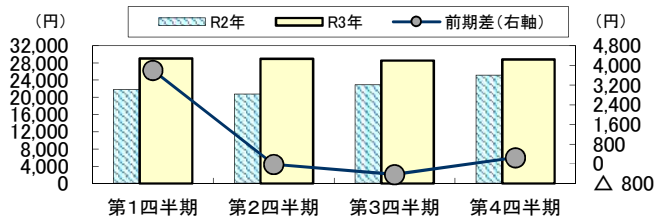
株価は上昇し、円相場は円安となった。

- (1) 東証一部日経平均株価(225種、期中平均値)は28,836円40銭、前年差6,131円38銭高となり、2年連続で前年を上回った。

【 詳細は P.52に掲載 】

(単位:円)

	株価	前期差 前年差
第1四半期	29,001.71	3,807.28
第2四半期	28,983.39	△ 18.32
第3四半期	28,554.00	△ 429.39
第4四半期	28,810.08	256.09
R3年	28,836.40	6,131.38

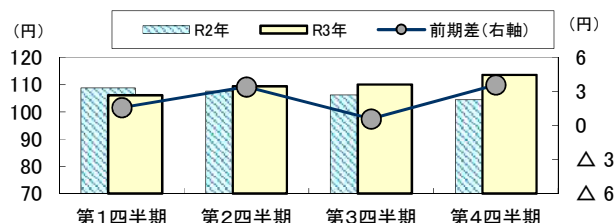


- (2) 東京外国為替市場の円相場(対米ドル、期中平均値)は109円89銭、前年差3円16銭安となり、4年振りに円安となった。

【 詳細は P.52に掲載 】

(単位:円)

	円相場	前期差 前年差
第1四半期	106.09	1.60
第2四半期	109.50	3.41
第3四半期	110.09	0.59
第4四半期	113.70	3.60
R3年	109.89	3.16



景気動向指数

新型コロナウイルス感染症の影響で下降した前年から、持ち直しの動きが見られた。

- (1) 福島県景気動向指数(CI一致指数)は上昇した。

【 詳細は P.54に掲載 】

(単位:ポイント)

	CI一致指数	前期差 前年差
第1四半期	64.7	7.3
第2四半期	70.0	5.3
第3四半期	71.5	1.5
第4四半期	69.7	△ 1.8
R3年	69.7	12.3

(四半期値及び年値は期末値)

